

広報おぞら 10年記念特別号

OZORA

10th
anniversary

10年間の「ありがとう」を込めて。

町章



大空町(OZORA)の英字頭文字「O」をベースに、澄み切った透明感のある大空、交流拠点となる空港と基幹産業である農業を青色と緑色の流線型で表し、大空町を象徴しています。

シンボルマーク

(平成19年3月1日制定)



[デザインイメージ]
三角は藻琴山で角が丸いのはやさしさを表します。水芭蕉と芝桜は大空町の花。そして、三角上部の青色は湖と空を表し、飛行機が白いのは、みんながひとつに染まるようにということを表現しています。

大空町民の誓い

(平成19年6月20日制定)

(前文)

澄みきった大空 美しい藻琴山と網走湖
恵み豊かな大地 夢はこぶ女満別空港
わたしたちは この大空町で開拓の歴史を誇り
未来にはばたくまちをつくるため ここに町民の誓いを定めます

(本文)

- 1 自然を愛し 環境と調和した美しい大空町をつくります
- 1 生涯学び 心豊かな文化を創造する大空町をつくります
- 1 共に支えあい 健やかで明るく暮らせる大空町をつくります
- 1 きまりを守り 安全で安心できる大空町をつくります
- 1 意欲的に働き 活力あふれる大空町をつくります

大空町 まちづくり宣言

(平成28年3月8日制定)

大空に 人・花・心 育むまち

生涯にわたる教育を「人」、農業を中心とする産業を「花」、心身の健康を「心」という言葉に込め、澄み渡る大空のもとで、たくさんの幸せが育まれる様を表しています。

平成18年3月

2つのまちが1つとなり、新たなまちが誕生しました。

澄み切った大空、

そして、その大空の下に広がる実り豊かな大地の中で
住民が、夢や希望をもって

晴れ晴れした気持ちで暮らしていくことをめざすために、
町名は

「大空町」と名付けられました。

町民は、自分たちの住むまちに愛情を注ぎながら

「町章」を定め、シンボルマークを創りました。

幸せを運ぶキャラクター「そらつきー」が生まれ、
笑顔が溢れるまちになりました。

一方で、自らの目標となる、「町民の誓い」や

「自治基本条例」「議会基本条例」などの規範を創り、
「まちづくり宣言」も行いました。

いつまでも変わらない大切なものを忘れない中にも、

新しく変化を重ねるものを取り入れながら、
少しずつ歩みを進めてきたように思います。

平成28年3月

大空町は10歳の誕生日を迎えます。

人口7、500人の小さな町ですが、
10年間という月日の中には、人の数だけ思いがあります。

私たちは、どのような思いで、この町と共に暮らしてきたのでしょうか。
新町大空町とともに、私たちの10年を振り返ってみてみたいと思います。

新たなステージへ 次なる一步を



大空町長
山下 英二

大空町誕生

10年を迎えて

平成18年3月31日に旧東藻琴村と旧女満別町が合併し、大空町が誕生してから10年という節目の年を町民皆様とともに迎えることができました。この間、町民の皆様をはじめとする多くの方々にご支援、ご協力いただきましたことを心から感謝申し上げます。

これまでの歴史を顧みますと、東藻琴開拓110年、女満別開拓125年という節目の年でもあり、先人が大自然の未開の土地に開拓の跡を入れ、ともに苦労を重ね、たゆまぬ努力によって郷土の礎を築いてくれました。今もなお、先人の思いによって築き上げられた産業や文化、郷土愛が私たちの心に脈々と引き継がれ、育まれています。

この10年間、新町建設計画や「大空と

大地の中でふれあいと語りいで創る感動のまち」を将来像とした第1次大空町総合計画に沿って、両地域の特性を継承しながら、ふれあいを大切にした対話と協働のまちづくりに取り組んでまいりました。互いの地域で育んできた歴史や文化などを尊重しつつ、町民を主体とした、いきいきとした魅力あるまちを創造するため幾多の議論を重ねた10年間でもありました。本年度実施いたしました記念事業には、大勢の町民の皆様に参加をいただき、ともに10年をお祝いすることができました。2、000人を超える方々に関わっていただいた「たすきリレー1000人プロジェクト」、町民同士の交流と絆を深めた「町民運動会」、文化団体などが中心となり両地域の町民が心をひとつにして創り上げた「町民舞台」

など、様々な記念事業で町民の皆様がひとつのことに向かって取り組む姿に、大空町のこれからの発展に大きな期待が持てるものと強く感じました。

これからの新しい10年を展望する計画として、「夢を絆を 笑顔で彩る大空町」を将来像とした第2次大空町総合計画が策定されました。常に町民の皆様と対話の姿勢を持ち、「ふれあい」によりつながり始めた心の融合を強い「絆」に変え、さらなる一体感の醸成によって、輝く未来を皆様とともに創り上げていきたいと思えます。

大空町のさらなる飛躍のため、町民の皆様におかれましては、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。



大空町議会議長
近藤 哲雄

大空町合併

10周年を迎えて

平成18年3月、旧女満別町と旧東藻琴村の1町1村の合併により現在の大空町が誕生し、今年で町村合併10周年を町民の皆様方とともに迎えることができました。この喜ばしい日を迎えることができました。

この喜ばしい日を迎えることができました。このことは、町民皆様の、深い郷土愛の賜であり、心から敬意と感謝を申し上げます。

新町は8、694人のまちとしてスタートしましたが、昨年11月末には7、600人を割り込み、加えて高齢化率33%と年を追うごとに高くなっています。一方、合併当初心配された財政状況も改善され健全な状態になってきておりますが、この先、地方交付税が減額に向かう中で、財政規模の縮小が予想されより一層の行政改革が求められています。

合併から10年、地方自治においては、地方分権から地方主権へと、地方自治体の自己責任の範囲は急速に拡大しております。

現在わが国では、急速な少子高齢化に伴う人口減少社会が到来し、多くの自治体において、人口の減少により地域活力が奪われるなど厳しい状況下であり、政府は地方創生の名の下に頑張る地方を応援することとしており、地方は自ら考え、人口減少問題に取り組むため様々な取り組みを考えて行かなければなりません。

このような社会情勢の中で、向こう10年間の町の行政運営の指針となる「第2次大空町総合計画」が策定されスタートの年であります。「健康で安全・安心な住みよいまち」を築き、次世代へ継承していく

ために、重要な計画となります。

議会としましては、先人の皆様が発見した文化や歴史を後世に引き継いでいくとともに、町のめざす将来像「夢を絆を 笑顔で彩る大空町」をめざし、議員一同、より一層努力してまいります。

町民の皆様におかれましては、引き続きご支援と、ご協力をお願い申し上げます。



大空町 10年のあゆみ

OZORA history of the 10 years



10年間の「ありがとう」を込めて。

平成18年3月31日

私たちは、合併という大きな決断のもと
大空町として、はじめの一步を踏み出しました。
「東藻琴」、「女満別」2つの地域が手を取り合い、
ふれあいを重ねながら、共に歩んできた10年間。
この間、少しずつながらも、
しっかりと明日への一步を進めてきました。

大空町誕生10年の節目に
その軌跡を振り返ってみます。

2006

平成18年

大空町誕生

- | | |
|------|--|
| 3月 | 大空町誕生記念パーティー |
| 3月 | 「カップルの桜」望郷桜」記念植樹 |
| 5月 | 女満別中学校吹奏楽部、北見商業高校吹奏楽局
「大空町開町記念ジョイントコンサート」 |
| 7月 | 大空町開町記念式典 |
| 7月 | 稲城市・氷川町と姉妹都市・友好町調印式 |
| 7月 | 大空町開町記念メルヘンフェア |
| 8月 | 第1回地域審議会 |
| 9月 | 指定管理者制度導入 |
| 7~9月 | 低気圧による大雨・暴風災害 |
| 11月 | 開町記念 松竹大歌舞伎公演(松本幸四郎さんほか)
(降水量192.5mm 33世帯83人女満別老人福祉センターへ避難) |





町の木
町の花

[町の木]



ななかまど



しらかば

[町の花]



芝桜



水芭蕉

町技



バレーボール

平成19年

- 3月 大空町1周年チャリティー歌謡ショー
- 3月 選挙投票区の変更(11投票区↓4投票区)
- 4月 東藻琴国民健康保険診療所新築オープン
- 6月 **大空町民の誓い制定**
- 8月 各種証明書の休日交付サービス開始
- 10月 大空町誕生記念植樹(トマップ川公園内)
- 10月 藻琴山温泉 末広荘、しらかば荘取り壊し
- 12月 東藻琴小学校開校100周年記念式典



平成20年

- 2月 地域担当職員制度開始
- 2月 大空町移住者模擬議会
- 4月 第1次大空町総合計画スタート
- 4月 後期高齢者医療制度スタート
- 4月 特別養護老人ホーム女満別ドリーム苑30床増床
- 4月 地域間バス運行開始

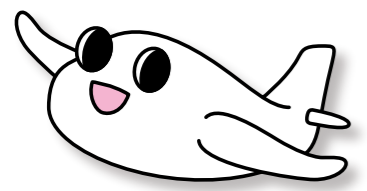


平成21年

- 2月 大空豚しゃぶ長いも井デビュー
- 3月 **そらっきー愛称が決定**
- 3月 夢号33歳で永眠
- 3月 大空町3周年チャリティー演芸会
- 4月 見守りネット事業スタート



大空豚しゃぶ長いも井



そらっきー So Lucky

大空町の「空」と飛行機の「機」の文字を組み合わせたもので、英語にすると「So Lucky」、幸せを運んできたり、運んだりするという意味が込められています。





平成22年

- 3月 豊住スポーツクラブ設立
- 3月 大空町5周年チャリティー演芸会
- 4月 メルヘン観光交流センター完成(メルヘンぴつとに愛称が決定)
- 6月 **メルヘン観光交流センター(メルヘンぴつと)オープン**
- 9月 空港誕生75年流水観測飛行記念フォーラム
- 12月 女満別小学校新校舎、新給食センター完成
- 12月 女満別小学校旧校舎お別れ集会



平成23年

- 1月 大空町女満別商工会・大空町東藻琴商工会合併調印
- 3月 **合併5周年記念舞台「大空の四季」**
- 3月 東日本大震災発生
- 3月 被災地へ義援金、募金箱設置、災害支援物資提供
- 3月 網走市・大空町定住自立圏形成協定調印
- 3月 大空町商工会発足
- 8月 被災地支援(集塵車を陸前高田市へ寄贈)
- 12月 **そらっきーカード誕生**



平成24年

- 1月 **女満別高校野球部第84回選抜甲子園21世紀枠決定**
- 3月 豊住小学校開校100周年記念式典
- 3月 女満別高校野球部選抜甲子園出場(VS九州学院)
- 4月 大空町障がい者福祉センターちあふる開所式
- 5月 東藻琴温泉イチゴ狩り
- 6月 大空町自治基本条例施行
- 6月 大空町議会基本条例施行
- 6月 東藻琴温泉イチゴ「芝桜乙女」に決定
- 11月 第1回大鵬杯・大空町少年少女相撲大会
- 12月 交通事故死ゼロ1000日達成



平成25年

- 3月 第48代横綱大鵬幸喜国民荣誉賞受賞記念相撲大会
- 5月 芝桜の湯オープン
- 10月 もこと山ふきおろしマラソン30回記念大会(フルマラソン、リレーフルマラソン)





平成26年

- 2月 東藻琴中央自治会館落成記念式
- 2月 豊住小学校閉校式
- 3月 女満別ドリーム苑20周年記念式典
- 7月 大阪国際空港(伊丹線)への直行便が期間限定で9年ぶり再開
- 8月 第1回大空町検定「大空マニアック」開催
- 8月 第1回OZORA杯町民交流パークゴルフ大会開催
- 10月 大空町メール配信サービス開始
- 10月 町民による死亡交通事故ゼロ1000日達成
- 11月 **そらつきーがリニューアル**
- 11月 大鵬道場(東藻琴相撲場)オープンセレモニー、オープン記念相撲大会



平成27年

- 1月 女性消防団応急手当普及員誕生
- 1月 大空町10年記念ロゴマーク、キャッチフレーズが決定
- 2月 アンテナショップほのか空港店オープン
- 4月 ふるさと応援寄附金 特産品贈呈開始
- 5月 10年記念事業 ひがしもこと芝桜まつり
- 5月 10年記念事業・教育文化会館リニューアル記念 NHKラジオ深夜便のつと
- 5月 大空町10年記念ソング・ダンス(女満別空港ビル(株)作成)が空港春フェスで披露
- 6月 10年記念事業 **たすきリレー1000人プロジェクトスタート**
- 6月 10年記念事業 総合消防演習・大空消防フェスティバル2015



平成28年

- 7月 10年記念事業 交通安全・社会を明るくする運動
- 7月 10年記念事業 町民ビッグデー
- 7月 10年記念事業 イベントスタンプラリー
- 7月 10年記念事業 町民運動会(おおぞらスポーツフェスティバル)
- 8月 10年記念事業 めまんべつ観光夏まつり
- 8月 10年記念事業 STVラジオ 日高晴郎ショー in大空町祝10年公開生放送
- 8月 10年記念事業 ノンキールンドふるさとまつり
- 9月 10年記念事業 老人福祉大会・ふれあい広場
- 9月 10年記念事業 交通事故死ゼロ2000日達成
- 10月 10年記念事業 老人福祉大会・ふれあい広場
- 10月 10年記念事業 暴風雨による24時間雨量 観測史上最高 174.5mm
- 10月 10年記念事業 もこと山ふきおろしマラソン大会(暴風警報のため競技中止)
- 11月 10年記念事業 表彰式
- 11月 10年記念事業 スポーツ講演会
- 12月 10年記念事業 町民舞台おおぞら

- 2月 地域おこし協力隊 任命
- 2月 10年記念事業 女性模擬議会
- 2月 10年記念事業 北海道簡易軌道藻琴線記念碑除幕式
- 3月 10年記念事業 流水観測飛行記念碑除幕式
- 3月 10年記念事業 広報誌特別号発行
- 3月 大空町まちづくり宣言制定





町民ビッグデー 2015

4年ぶりに復活、町民憩いのイベント

大空の下、町民皆さんに1日を楽しんでいただく町民ビッグデーが4年ぶりに復活しました。楽しい1日となることを予感させる、爽やかな青空が広がります。朝早くから、買い物広場で出店する町民やスタッフが準備を進める中、開会を待ちわびた町民の姿が見え始めました。ステージ横にはオーロラビジョンが配置され、プレミアム感が漂っています。9時30分のオープニングセレモニーで幕を開け、メインステージの「音楽広場」では、金管クラブや吹奏楽の演奏が始まります。歌謡ショー、龍舞隊と続き、子どもたちによる10年記念ソングとダンスも披露され、10年記念のビッグデーに華を添えようと多くの方がステージを盛り上げます。女満別故郷太鼓が始まった記念セレモニーでは、1000人プロジェクトが感動のゴールを迎えました。



感動の余韻冷めやらぬまま、午後の歌謡ショーが始まり、立ち見も出るほど多くの方が詰めかけ、ボルテージも最高潮を迎えます。子どもたちの笑い声に包まれた「ちびっ子広場」や出店者の笑顔にお客さんも笑顔となった「買い物広場」、地元和牛をはじめ旬の野菜など美味しそうな香りに包まれた「焼肉広場」も大盛況となりました。たくさんの笑顔が溢れた町民ビッグデー。4年ぶりということもあって、多くの町民が待ち望んでいたかのような賑わいでした。



輝く未来に

想いをのせて

さまざまな10年記念事業。たくさんの人たちとのふれあいの中で見えてきた未来。



町民運動会くスポーツフェスティバルく

より多くの皆さんに楽しんでもらうために

大空町となって、初めての開催となった町民運動会。

975名の選手、焼肉交流会には1200名を超える大勢の町民が参加しました。

これだけの大規模な運動会の運営には、町民の大きな支えがありました。

自治会連合会を中心に、体育協会、商工会、学校のほか、社会教育関連団体など多くの町民の方々からなる実行委員会によって、準備が進められてきました。

チーム編成をどのようにするか、より多くの色々な世代の方に楽しんで参加してもらうためにはどのようなにしたら良いか、両地区の交流を図るにはどのような方法があるかなど競技種目はもとより、交流会についても様々な議論が交わされました。

最初の頃の会議は、面識が少なかったこともあり、なかなか話が進みませんでした。話を重ねるうちに自然と話が活発になり、実行委員会の交流も進んでいきま

した。

協議が深まるにつれて、「町民に参加してもらおう」という意識から、「みんなと一緒に運動会を創り上げる」という「協働」への意識に変わっていったことは、なにより意義深いものとなりました。

こうして町民運動会は、多くの町民の思いによって創り上げられ、当日を迎えたのでした。



一致団結 力を合わせて

7月12日、10年記念を祝うかのような青空が広がり、まさに運動会日和の朝を迎えました。

この日を心待ちにした大勢の参加者が続々とグラウンドに集まってきました。

開会式が始まる頃には、気温も30℃を超え、皆さんの熱気が伝わったかのような暑さです。

開会式に続き、いよいよ競技の始まりです。徒競走や大玉ころがし、玉入れ競争と次々に競技が進んでいきます。

お年寄りから子どもまでが参加した「ダンボール箱運び」や「人間じゃんけん」、力自慢が集まった「大空ばんばん」などアイデア溢れる競技が続きます。

なんとこれも一番の盛り上がりを見せたのは、団体競技の花形、大空綱引きでした。自治会混合チームのプライドをかけた勝負に、選手も応援団も一層力が入ります。まさに気持ちが一つとなった白熱の一戦でした。

たくさん輝いた笑顔に、多くの方がこう感じたのではないのでしょうか。

「合併から10年、少しずつではあるけれど、



着実にふれあいの輪が広がってきたのだと……

そして、そのふれあいの輪を未来へ伝えたいと願う機会になったように思うのです。

皆さんの笑顔と歓声に包まれた運動会。町民によって創り上げた素晴らしいのは、子どもたちにも伝わってほしいと願うのです。どこまでも続く、あの青空と同じように……



たすきリレー1000人プロジェクト

みんなの想いを未来につなぐ たすきリレーへ込めた思い

平成26年11月、役場の会議室では、10年記念事業に向けた話し合いが行われました。

少しずつ、両地域の交流は進んでいるものの、これを機に、さらなる融合を進めることができないうか。

そのような話で始まりました。

「東藻琴から女満別までのリレーなんてどうだろう。」

「標高1000mの藻琴山、海拔0mの網走湖というロケーションを活かせないだろうか。」

「それなら、町民みんなの気持ちをつなぐという思いを込めて、旗に寄せ書きをしてもらい、1本のたすきをつなぐのはどうだろう。」

「旗には、未来への想いを書いてもらい、『みんなの想いを未来につなぐ』というコンセプトにしてはどうか。」

「思い切って1000つながりで、『1000人プロジェクト』なんてかっこいいのではないか。」

「たすきリレーの模様を動画撮影して、町民ビッグデー会場で放映してはどうだろうか?」

「それだったら、みんなの思い出に残るように、WEBでも見られるようにしてはどうか。」

こうして、日頃感じていた、もう一歩進んだ一体感を形にしたいとの「まちづくりへの思い」がどんどん膨らみ、未だかつてない壮大なプロジェクトとして誕生したのです。



笑顔と心をつなぎ、確かな絆へ

1000人に関わってもらった「たすきリレー1000人プロジェクト」は、ゴールしたときには、2000人を超える大勢の方々に参加をいただきました。

町内を駆け巡り、総距離はおよそ70km、旗への寄せ書きを含めると2か月間という、まさにロングランイベントです。

皆さんの想いをのせた1本のたすきと1枚の旗は、たくさんの方々の声援の中、つながれていきました。

たすきをつなぎ、握手やハイタッチ、抱き合う姿からは、日頃のふれあいからなる信頼感や感謝の気持ちなど、素敵な笑顔となって溢れます。

ときには、少し照れた表情や緊張した表情も垣間見ることができました。普段、挨拶を交わすぐらいたった間柄も、このたすきリレーによって、心と心がつながるきっかけになったのではないのでしょうか。

皆さんの想いを未来へつなぐとして始まった「たすきリレー」は、皆さんの笑顔や心をつなぎ、大観衆が見守る中、感動のゴールを迎えたのです。



♪
繋いだ歴史 確かな絆
きらめく翼 勇気のカ
月日を重ねて 響くよ
ハーモニー
翔こう! 輝く未来へ
大空へ!!

出会えたことが 嬉しい
大空町



町民舞台おおぞら

心をひとつにして創り上げた舞台

会場となった大空町教育文化会館には、この日を待ち望んだ大勢の町民が詰めかけました。「おめでとう10年ー希望あふれる未来に向けて」をテーマに、文化団体協議会を中心に有志を募り、実行委員会が「から創り上げた町民舞台「ハッピー・テンス・パースデイ・大空」。

「芝居」を軸に、20年後の大空町30年記念式典を舞台にした「演目」を組み合わせた画期的な舞台です。主人公を演じる小学生の息のあった演技を中心にストーリーが展開されていきました。「舞台上に多くの人が関わって、まちの文化を振興させたい」という関係者の思いから、多くの文化団体も出演しました。フィナーレでは、出演者とともにスタッフ全員が踊り、鳴り止まない観客の拍手に応えたカーテンコールでは、「遥かなる大地の詩」を会場全体で合唱しました。舞台と客席が一体となった歌声

町民舞台が伝えたこと

多くの町民が詰めかけ、心に響く素晴らしい舞台となった「町民舞台おおぞら」。

当日は昼と夜と2度の公演を行い、出演者やスタッフにとっては気の抜けない長い1日となりました。ただ、彼らにとって気が抜けないのは、この日だけではありませんでした。

出演者は、毎日の学校や仕事の合間を縫って練習に励みました。時には役者がそろわず、スタッフが代役を務めセリフ合わせを行うこともありました。シーンごとの練習が続き、全体を通した練習ができたのは、前日のことだったのです。

実行委員や出演者に話を聞くと、「本当に大丈夫だろうか」と心配の日々が続いたと言います。演出を担った みつ輪りんさんも、最後の最後まで脚本を書き直し、手ごたえを得たのは、開演日の直前だったと話してくれました。

ただ、そうした中でも、彼らがこだわりぬいたそのコンセプトとは、「町民を主体とした」町民による町民のための舞台制作をすることに他ならなかったのです。子どもから大人まで、100

♪
青空高く 豊かな自然
恵みの大地
開拓の意志 受け継いで
明るく 健やか 未来を指して
心に想いを 刻むまち
ああ ああ ああ ああ
夢のふるさと 大空町
ああ ああ ああ ああ
私の好きな 大空町
♪

は、会場に響き渡り、町民が一体となって、大空町10年を心から祝っているようでした。きっと20年後も、光り輝いた、素敵な町になっていると、心からそう感じさせる素晴らしい舞台でした。



名の出演者と70名のスタッフ。そして、多くの観客が一体となった舞台を創ることが彼らの目標でした。

どんなに不安があっても、どんなに苦労があろうとも、ゆるぎない自らの意志を貫いた彼らの思いは、大空町の未来へ向けた、メッセージとなったのです。



平成27年

大空町の10年を祝う記念事業に
多くの町民が集まりました。

当日は、空も祝福するかのような天候に恵まれ、
元気に走り回る子どもたちや
楽しそうに会話するおじいちゃんやおばあちゃん、
赤ちゃんを抱っこしたお母さんや
肩車をしたお父さんなど、
大空町が幸せな笑い声に包まれた、
そんな1年だったように感じます。

合併から10年。

多くの方にとって、
これまでの郷土愛が強かったからこそ、
色々な思いを抱えてきた
10年だったのではないのでしょうか。

ただ、そうした思いの中にあっても、
私たちはこのまちの町民として、
未来へはばたくまちをつくるため、
少しずつ力を合わせ、
まちの礎を築いていたのです。

きっとその思いは、
大空町への郷土愛として、
未来を担う子どもたちへ
引き継がれてゆくはずです。

この向日葵たちが
手と手を取りあい、
輝いた笑顔で

大空へ向かっているように、
私たちもこうありたいと願うのです。

はばた

翔こう、

輝く未来へ大空へ。

